

京師帝國大學法學科大學

經濟論叢

第三卷 第四號

故法學博士井上密君肖像并哀辭

論說

對露輸出代金決済方法

國防稅ノ當否(二、完)

代表紙幣ト獨立紙幣(一)

課稅ト獨占價格(一)

戰後ノ人口増加政策(一)

保險本質論(二、完)

雜錄

在外正貨問題チ河津博士ニ答フ

公營造物ニ關スル美濃部織田松本三博士ノ所論ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ(一)

支那ニ於テ人口過剩論ノ梗概

移民政策上ヨリ邦人同化問題

村落共產體ノ發達

らぐれー『ミール』學說ノ研究(三、完)

過去ニ於テ和蘭ノ植民の活動

神惟孝ノ事ニ就キ 鈴木券太郎氏ニ答フ

漬物机上觀

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戶 正雄

法學士 作田 莊一

文學士 高田 保馬

法學士 米田庄太郎

法學士 小島昌太郎

法學博士 神戶 正雄

法學博士 福田 徳三

法學博士 鈴木券太郎

法學博士 山本美越乃

法學士 山本美越乃

法學士 本庄榮治郎

商學士 大塚金之助

法學士 山本美越乃

法學士 瀧本 誠一

法學士 財部 靜治

(載 轉 禁)

大正五年十月一日發行

重ネテ在外正貨問題ヲ
説イテ河津博士ニ答フ

神戸 正雄

(一)

予カ「新日本」本年三月號ニ在外正貨ノ處分ニ關スル管見ヲ發表シタ處、河津博士ハ之ヲ默過セスシテ、鄭重懇切ナル批評ヲ「國家學會雜誌」四月號ニ出ダサレ、以テ予ノ蒙ヲ啓キ誤ヲ訂サレタニ就イテ、予ハ博士ノ此批評ニ對シテ本「論叢」六月號ニ答文ヲ寄セテ酬エルコトトシタ。然ル處博士ハ尙ホ此答文ニモ不滿意ヲ見出タサレテ、重子テ文中ノ誤謬ヲ指摘シテ更ラナル詰問ヲ發セラレタ。博士ガ眞理ヲ闡明セザレバ已マザルノ熱心、後進ヲ指導シテ倦マザルノ篤志ニ對シテハ、予ハ非常ナル感動ヲ禁ジ得ナイ所デ、或ハ右ノ詰問ニ答辯ヲ爲シ得ザルモノトシテ降ナ博士ノ門ニ乞フノガ、博士ニ對スル禮カトモ考エタガ、之ニ對シテ予ノ最善ノ努力ヲ盡シテ答辯スル方ガ、博士ノ如ク篤學ナル先輩ニ對シテハ却ツテ一層大ナル敬意ヲ表スル所以下考直シタルノ故ニ、敢テ下ニ答辯ヲ爲ス。但ダ用語ニハ最モ注意ヲ拂フタガ、文勢上如何ニモ博士ニ敬意ヲ拂ハザルカノ如クニ見ラルル嫌アル語ヲ使フノ外ナキ場合モ生シタ。予ニ於テハ寸

雜 錄 重子テ在外正貨問題ヲ説イテ河津博士ニ答フ

毫モ博士ヲ輕蔑スルノ念ハナイ。博士ノ篤學ナル態度ニ對スル尊敬ノ念ハ益々深イ。文辭ノ不敬ハスベテ寛仁ナル博士ノ宥恕ヲ乞フ。

(二)

予ハ博士ニ對スル答辯ヲ爲スノ前ニ、先ツ本問題ニ對スル異說ヲ列擧シテ其ノ異同ヲ辯ジ、以テ予ノ說ガ他ノ諸見ヨリモ優レタリト信ズル所以ヲ明カニシヤウト思フ。凡ソ在外正貨ニ對スル方策ニツイテノ見解ハ三大別スルコトガ出來ル。曰ク蓄積論、曰ク外債減少論、曰ク生産的利用論是デアアル。小川博士ハ第一說ヲ採リ、河津博士ハ第二說中特ニ外國債償還論ヲ唱エ、而シテ予ハ第二第三說ヲ併セ採リ而モ第三說ヲ重シトスルモノデアアル。第三說ノミヲ採ルノデハナイガ、河津博士ノ如ク第二ノミヲ用キラルルニ對シテハ、寧ロ第三說ニ傾クモノト稱スルヲ得ル。第一論ノ蓄積ニツイテハ予ハ最小限度ヲ主張スルモノデ、現在問題トナリ居ル増加シツツアル所ノ在外正貨ニツイテハ、全ク第二カ第三カニ依ツテ處分セヨトイフモノデアアル。尤モ第

第三卷 (第四號 五五二) 九一

一ノ蓄積論デモ、在外正貨ヲ利殖スルダケデハ、第二第三ト結果ニ於テ少クトモ一部ハ一致スルコトニナル。唯ダ其目的又ハ趣意ガ異ル。デ此第一第二第三説ガ相互關聯シテ、全然別異獨立シタモノデナイコトハ左ノ圖表ヲ以テ明カニスルコトガ出來ル。

(I) 蓄積策
 (A) 正貨ヲ其儲蓄積スルコト
 イ 正貨ヲ日本ニ持來ツテ蓄積スルコト
 ロ 正貨ヲ保護預リトシテ外國銀行ニ据置クコト
 (B) 容易ニ正貨ニ換エ得ルモノニ放資シツテ蓄積スルコト

(II) 對外債務減少策
 (A) 外債ヲ償還又ハ買入ルルコト
 イ 外國債ヲ償還又ハ買入ルルコト
 ロ 在外地方債社債等ヲ償還又ハ買入ルルコト
 (B) 對外債權ヲ增加スルコト
 イ 歐米ニ於ケル公債社債株等ヲ買收シ又ハ事業ニ直接放資スルコト
 ロ 支那其他ノ東南洋ニ於ケル公債社債株等ヲ買收シ又ハ事業ニ直接放資スルコト

イ 歐米ニ於ケル銀行預金、商業手形、短期公債ニ放資スルコト
 ロ 歐米ニ於ケル有力確實ナル株、社債ニ放下スルコト

(III) 生産的利用策
 (A) 内地ニ於ケル事業ノ創立、擴張、運轉ニ用ユルコト
 (B) 外國ニ於ケル事業ニ放資スルコト

イ 歐米ニ於ケル事業ニ放資シ又ハ其事業證券ヲ買收スルコト
 ロ 支那其他ノ東南洋ニ於ケル事業ニ放資シ又ハ其事業證券ヲ買收スルコト

デ (I)ノ(B)ガ (II)ノ(B)ノイノ一部ト一致シ、(I)ノ(B)ノ一部ガ (III)ノ(B)ノイノ一部ト一致スルハ勿論、(II)ノ(B)ハ公債ニ關スルモノヲ除ケバ (III)ノ(B)ト一致スル。但シ支那ニ對スル公債ノ如キハ事業證券ニ準ズルモノト見テモ良カラウ。

(三)

斯ク三主義トモニ共通點又ハ聯絡ヲ有スル所ガアルガ、孰レモ觀察點ガ異リ、重キヲ置ク所ガ違ウ。蓄積論方ライヘバ正貨ヲ其儘ニ置クコトニ重キヲ置クコトトナリ、對外債務減少論方ライヘバ外國債償還ニ重キヲ置クコトトナル。而シテ生産的利用策方ライヘバ特ニ資本ヲ内國及東南洋ニ放下スルコトニ重キヲ置クコトトナル。而シテ又其第一説ノ目的トスル所ハ主トシテ正貨爭奪戰ニ備エヤウトイフノデアリ、第二

説ハ日本ノ對外債務ノ多ク其負擔ノ大ナルヲ憂フルヨリ起リ、第三説ハ切角増加シツツアル資金ヲ此好機ニ乗ジテ内外ニ利用シテ我國ノ將來ノ大發展ヲ計ラウトイフノデアアル。偕テ第一説ノ正貨爭奪戰ニ備フルトイフコトハ一見尤モラシク聞ユルケレトモ、第三策サヘ其行ハレ、日本ノ經濟力及經濟上ノ基礎ガ強大トナツテ居ルナラバ、正貨爭奪戰ガ初マツテモ全ク安心デアアル。詳シクイヘバ夫ノ正貨ガ此際國內生産業ノ發展ノ爲メニ并ニ航海業及海外企業ノ發展ノ爲メニ使用セラルルコトトナレバ、原料ハ必要ニ應ジテドシドシ輸入スルコトガ出來、之ヲ以テ盛ニ製造加工シテ得タル製品ヲ復タドシドシト輸出シ、更ラニ航海業ヤ海外企業ヨリノ利益ヲモ受入ルルコトトナリ、外國ヘ支拂フヘキ勘定ヨリモ、外國ヨリ受取ルヘキ勘定ガ多クナツテ、自然ニ正貨ヲ取入ルルコトヲ得ルトモ、持去ラルル心配ナキコトヲ得ルコトトナラウ。然ルニ若モ假令正貨ノ蓄積ハ豊富デアアルニシテモ、右述經濟上ノ基礎ガ強大トナツテ居ナケレバ、

雜錄 重子テ在外正貨問題ヲ説イテ河津博士ニ答フ

航海業ヤ海外企業ヨリノ利益モ少ク、盛ンニ原料ヲ輸入シテ盛ンニ之ヲ加工シ輸出シテ利益ヲ産ミ出スコトモ出來ズ、外國競爭者ニ對シ敗者ノ地位ニ立ツテ、段々ト其持ツ所ノ正貨ヲ取去ラルルコトトナルノ外ナカラウ。特ニ蓄積スル所ノ正貨多ケレバ、ツイ内地ニテ發行スル兌換券モ多發ノ傾大トナルヲ免レズ、通貨膨脹ノ勢大ニ、隨テ輸入ヲ容易トシ輸出ヲ不利トスル情勢ヲ作ルコトトモナリ、此點カラシテモ折角蓄積シタル正貨ヲ喪失スルコトトナラウ。正貨爭奪戰ニ應ズル爲メニ正貨ヲ備ヘテ置クノハ抑々末デアツテ、正貨ヲ取込ミ得ル經濟上ノ基礎ヲ作ルノガ本デアアル。特ニ此蓄積ヲ爲スノニ其儘ニ蓄積スルコトニナレバ、全ク利子ヲ失フコトトナリ、之ヲ利殖スルニシテモ、蓄積論ノ立場カラヤレバ極メテ薄利ニシカ利殖ハ出來ナイコトトナル。此點ノ不利モ考エナケレバナラヌ。尙ホ序デナガラ一言スル。蓄積トイフテモ完全ナル蓄積ハ内地ニ正貨ヲ持來ツテ蓄積スルノダケデアアル。外國銀行ニ保護預リトシテ預ケテア

ル正貨ノ如キモ、時ニ正貨タル働キヲ爲サヌカモ知レナイ。成程其所在國ニ對スル支拂ニ供スルニハ足ルデアラウガ、他ノ第二ノ外國ニ對スル支拂ニ充ツルニ於テ在外正貨トシテノ目的ヲ達セヌコトトモナリ得ル。況ンヤ之ヲ内地ニ持來ルコトハ必ズシモ出來ナイ。即チ所在國ニテ正貨輸出ノ禁止ヲスルカモ知レナイ。此輸出ガ許サレテモ途中潜航艇ニヤラルルカモ知レナイ。外國ニ於テ容易ニ正貨ニ換エ得ルモノニ放

資シツツ蓄積スルトスレバ、先ヅ以テ最大事ヲ取ツテ銀行預金、商業手形、短期公債ナドニツテ置クコトトナルデアラウガ、此方ハ一層危險デアアル。預金ヲ引出シ手形公債ヲ賣却スルトシテ不換紙幣ニテ拂ハルルカモ知レナイ。手形公債ハ賣ル時ノ値段ガ非常ニ下ルカモ知レナイ。預金ノ拂渡、手形金額ノ支拂ニ制限又ハ猶豫ガ定メラルルコトニナルカモ知レナイ。若夫レ在外正貨ヲ最有力確實ナル株社債ノ如キニ放資スルニ至ツテハ、如何ニ有力確實ナル事業ナリトテ盛衰ヲ免レナイノミナラズ、株社債ノ價格ハ金

融界ノ動搖ニヨリ影響セラルルコトモアルカラ、之ヲ賣放ツトキニ初メニ買入レタル時ヨリハ大ニ安キ値トナルカモ知レナイ。孰レニシテモ在外正貨ハ危險ノ伴フコトヲ覺悟シナケレバナラス。勿論此ニハ利益モアル。對外支拂資金トシテノ利益ハアルガ、危險モアリ、薄利又ハ無利トイフ弱點モアルカラ、最小限度ニ止ムルコトガ適當デ、多ク益々蓄積スルナドハ宜シクナイ。

(四)

對外債務減少特ニ外債償還ヲ唱フルモノハ日本ノ對外債務ノ多キコトヲ心配スルノデアアルガ、此ハ別ニ心配ニ及バヌ。勿論一國ガ對外債權ノ巨大ナルホドニナルコトハ望マシイコトデアアルガ、日本ノ國情デハ後進國トシテ且ツ前途多望ノ國トシテ、假令對外債務ハ多クトモ、之ヲ巧ミニ利用シテ、其債務ノ利子ヨリモヨリ大ナル利子ヲ産出シ又ハ少クトモ其債務ニヨリ有ツコトトナレル資金ヲ有益ニ使用シテ其國ノ地位ノ向上ヲ計ルコトトニ力ヲ用ユルノガ肝要デア

ル。今在外正貨が増エタカラトイフテ其レダケ
 借金ヲ返ヘサナイデ、其ヲ以テ國內ニテモ國外
 ニテモ有利ニ使用スル。借金ノ利子以上ノ價值
 ヲ産ミ出スコトヲ計ルコトガ肝要デアル。特ニ
 其ヲ國外ニ放資シタ場合ニハ、結局外債ヲ償還
 シタト同一デ、對外債務ハ減少シタコトニナル
 其放下シタ方ノ利子ガ、借リテル方ノ利子ヨリ
 モ大デアレバ明カニ却テ利益デアアル。其上ニモ
 此場合ニ其放資先ノ外國ニテ利權ヲ收メ、經濟
 上政治上發展ノ基礎ガ出來レバ、二重ノ利益デ
 アル。經濟上ニハ原料供給ガ豊富トナリ販路區
 域ガ擴張サルルコトトナル。假令此處ニ放資ス
 ル利子ガ借金ノ利子ヨリ小デアツテモ、尙ホ利
 子以外ノ處テ利益ガ得ラレテ其缺ヲ補フコトモ
 出來得ル。此方ノ利子ガ一層大デアレバ、尙更
 ラ以テ結構デアアル。若シ夫レ一般のニ日本ノ國
 債ガ過大デアルカラ、之ヲ減少スル爲メニ在外
 正貨ヲ以テ外債償還ニ向クルトノ論ニ對シテ
 ハ、便宜上河津博士說ニ對スル駁撃ノ處ニテ述
 ブルコトトスル。

(五) 生産的利用說ハ折角増加シツツアル所ノ在外
 正貨ヲ内外ノ生産的事業ニ放下シテ日本ノ發展
 ノ基礎ヲ強大ニシヤウトイフノデアアル。此方サ
 ヘ十分ニ出來レバ、正貨爭奪戰ニ處シテモ少シ
 モ恐ロシクナイ。外債ガ多クアツテモ優ニ其利
 子ヲ拂フコトガ出來ルカラ心配ハナイ。偕テ此
 生産的利用ヲ爲ストシテ、正貨ヲ以テ歐米ノ事
 業ニ放下スルコトモ一方法トハイビ得ルガ、歐
 米ニハ日本ノ勢力ノ及ビ得ナイ情勢デアアルカ
 ラ、其ハ日本ノモノデアツテモ半分ハ外國ノモ
 ノトデモイフヘキ關係ニ在ルヲ免レヌ。之ヲシ
 テ十分ニ完全ニ我物トシテ働カスノニハ、日本
 ノ内地ノ事業カ、然モナケレバ少クトモ東南洋
 ノ如ク日本ノ勢力ノ及ビ易キ外國ニ於ケル事業
 ニ放下スルヲ要スル。此ナレバ日本人ノ手ニ保
 全シ且ツ十分ニ又ハ二重ニ利用スルコトガ出來
 ル。トイフノハ、此ニ於テ放資スレハ其ヨリ直
 接ニハ利子ヲ生シ、間接ニハ原料供給及製品販
 賣ノ關係ニテ利益スルコトトナルカラデアアル。

一朝事變ノアツタトキニモ歐米ニアル日本ノ利益ハ到底日本ノ力デ直接ニ保護ハ出來ナイ。ガ東南洋ノ其ナレバ餘程ノ程度マデ保護スルコトカ出來ル。特ニ歐米ハ大體日本カライヘバ競争國デモアルカラ、此ニ日本ノ資本ヲ投ズルハ不利デアツテ、ムシロ之ヲ自國內ニテカ又ハ我勢力範圍地ニテ放資スルノヲ選ムヘシトスル。特ニ又今日歐洲諸國ガ東南洋ニ放資スル餘裕ナキニ乗ジテ、切角日本ノ餘資ヲ此地方ニ向ケテ、日本ノ勢力ノ基礎ヲ強固ニシ、益々日本ノ發展ノ素地ヲ作ラナケレバナラヌ。予ガ此ニ重キヲ置ク所以デアル。予ハ第二説ノ對外債務減少ヲモ認ムルガ、其ハ單ニ實行上ノ便宜カラ併セ行フトイフマデデ、出來ルダケハ此生産的利用ヲ行ハウトイフノデアル。

(六)

以上本問題ニ對スル臆見ヲ述ヘタカラ、是ヨリ河津博士ノ論文ニ對スル批評ニ移ラウ。博士ハ曰ク、

予輩ハ我國ノ財政状態ヲ甚ダ不健全ナルモノト觀テ居ルノデ

アル、我國民經濟ノ生産力ニ比シテハ第一ニ租稅負擔カ重キニ過キハニマイカ。第二ニハ公債額カ多キニ過キハニマイカト思フノデアル。我國民ノ租稅ナリ公債ナリノ分額ヲ以テ諸國ノニ比較スレバ絶對數ニ於テハ決シテ重イトハイハレマイガ、我國民ノ生産力ニ比較シテハ決シテ重クナイトハイハレナイ。故ニ其欠缺ヲ補フコトガ我國民經濟ニトリテ最モ重要デアルト爲スノデアル。幸ヒ我國ノ國際貸借關係ガ我國ニ有利ニナツタカラ之ヲ機曾トシテ少シニテモ其欠缺ヲ補ヒタイトイフノガ予輩ノ希望ナノデアル。コノ觀察ガ誤ツテ居ルモノナラ、予輩ノ本間ニ對スル結論モ亦價值ノ少ナキモノトナラサルヲ得ナイノデアル。

ト、博士ノ此文ハ博士カ自問自答シテ其説ヲ自ラ輕視シテ居ラルルヤウニ見エル。博士ハ日本ノ公債ノ多イコトヲ心配シ之ヲ欠缺(！)トシテ居ラルル。其欠缺ヲ偶々生シタル我國ノ國際貸借關係ノ有利ニヨリ補ハウトイハルル。ツマリ在外正貨ノ増加ヲ利用シテ、内債ヲ起シ外債ヲ償還シ以テ、所謂欠缺ヲ補ハウトセラルルノデアル。ガ外債ハ減少シテモ内債ガ其ニ應ジテ殖エルカラ、博士ノ日本ノ公債額ノ多キニ過グル心配ハ解カレナイ。其レトモ博士ノ心配ハ日本ノ公債ノ過多デハナクテ外債ノ過多ナノデア

ルカ。併シ博士ノ文章ニ公債トアル以上ハ外債
デハナイトシテ議論スル外ハナイ。或ハ英佛就
中佛國ノ貨幣ノ日本貨幣ニ對スル爲替上ノ價值
ガ下ツテ居ル、其點カラ内債起債外債償還ガ日
本ノ公債額ヲ減少スル結果ニナル。博士ハムシ
ロ此點ニ重キヲ置カレタノカモ知レナイ。成程
其ハ確カニ然ウナル。然シ貨幣價值ノ下落ノ大
ナル佛貨公債ハ少クテ、其下落ノ種小ナル英貨
公債ガ多イガ、此方カライフト大シタ公債額ノ
減少ニハナラヌ。特ニ反面ニ四分、四分半ノ外
債ヲ返還シテ、五分以上ノ内債ヲ起スコトニヨ
リテ利子負擔ヲ増加シ、隨テ假令博士ノ一方ニ
心配セララル所ノ公債過多ハ取去ルコトガ出來
ルニシテモ、他方ニ心配セララル所ノ租稅負擔
ノ過多ヲ取去ルコトガ出來ズ、或ハムシロ其ノ
一層ノ増加ヲモ生ジ得ルコトヲ注意シナケレバ
ナラヌ。而シテ公債ノ過多ト租稅ノ負擔ノ過多
トノ中ニ就イテハ、博士ノ唱ヘラルル生産力ニ
對スル關係カライヘバ、租稅負擔ノ過多ノ方ガ
一層重大トイフコトヲモ附記シタイ。其方ハ一

方ニ失フ所アレバ得ル所モアルカラ、暫ラク措
クトシテモ、日本ノ公債ノ過多、日本ノ租稅負
擔ノ過多トイフ博士ノ心配其モノガ段々時世遲
レノ嫌ガアル。元來一固ノ租稅トカ公債トカノ
過重トカ過多トカイフコトハ一國ノミニテ論ズ
ベキコトデハナイ。國際比較カラ行クベキモノ
デアアル。重ナル競争國ト比較シテ論ズベキモノ
デアアル。戰前ニハ日本モ此國際比較上不利デア
ツタガ、今ハ刻一刻ト日本ノ爲メ有利ニ推移シ
ツツアル。此度ノ戰爭ニヨツテ歐洲ノ重ナル國
々ハ總ベテ大公債ヲ負ヒ又益々之ヲ負ハナケレ
バナラヌコトトナリ、既ニ重イ稅ヲ負フテ居ル
コトニモナツタガ、戰後ニハ尙一層ノ重稅ヲ負
ハナケレバナラヌコトトナツテ、日本ハ之ト比
較シテ寧ロ此等ノモノニ於テ輕易トイフコト
トナリ、又ナリツツアツテ、日本ハ此戰後ニハ
減稅ヤ減債ニカヲ用ユルヨリハ、之ニ用ユヘキ
財源ヲ一層有功ニ積極的ニ使用スルノ方面ニカ
ヲ用ユヘキ氣運ニ向ヒツツアル。博士ガ今日モ
尙ホ日本ノ公債ガ過多トカ租稅負擔ガ過重トカ

イフテ居ラルルノハ、聊カ時世ノ變ヲ看過シテ居ラルル誹ヲ免レナイ。尤モ米國ダケハ此戰爭ニヨツテ大負擔ヲ生シタリトハイヘナイ、ムシロ一層有利ニナツタトモイヘル。隨ツテ日本ヲ此競爭國ト比較スレバ尙ホ日本ノ租稅重シ公債多シトモイハルルガ、所謂國際比較論ハ斯カル例外ヲ以テ論スヘキモノデハナイ。多數ノ國ニツキテ平均的ニ議スヘキモノデ、此カライヘバ日本ハ益々有利デ心配ノ要ハナイ。或ハ此米國トイフモノヲ競爭國トシテ重ク見テ日本ノ租稅公債ノ負擔過大也トイヒ得ルトシテモ博士ガ此米國ヲ見テ立論セラレタモノデナイコトハ前掲文ニヨツテ明カデアアルカラ、博士ガ之ヨリシテ強辯セラルルコトハ出來ナイ。博士ハ此點ニ於テ研究方法上ニ弱味ヲ有ツテ居ラルルと思フ。其ヲ誤ツテ居ラルルト評シテハ相濟マヌガ、若モ寬仁ナル博士カ之ヲ許サルナラバ、博士自ラモ認メラルル如ク、博士ノ結論ハ價值小ナルモノトナラナクバナラス。

(七)

予ガ博士ノ如ク外債償還一天張リデハ困難デアルトイフテ理由ヲ擧ゲタルニ對シテ、其レハ六ツ箇數イコトデハナイト辯明セラルルヤウデアアルガ、其ガ容易トシテモ、予ノ如ク外債償還ノ外ニ色々ノ方法ヲ認メテ適宜實行スルノヨリモ、ヨリ容易トハイヒ得ナイ。予ガ曩キニ予ノ如ク各種ノ方法併用ヨリモ博士ノ外債償還一天張ノ方ガ一層實行容易也トイフコトヲ得ヌトイヘルニ對シテハ、博士ハ何等ノ答辯ヲ與ヘラレヌ。恐ラク此點ハ博士モ承認サレタデアラウシ、又承認セラルルノ外ナキコトデアラウ。然ラバ予ノ說ノ方ガ博士ノヨリハ一層實行容易ナルダケ、實行上カラ一層勝レタル說トイツテモ良イト思フ。他方理論上カラハ既ニ前回ノ文中ニモ指摘シタル如ク博士ハ外債償還ヨリモ生産的利
用ノ方ガ優レタリト認メテ居ラルル所故、實行理論何レカラ見テモ予ノ說ヲ優レリト認メテ下サル外ハナイヤウニ思フ。

(八)

予ガ前回ノ文中ニ外債償還ノ困難ヲ説ク爲メ

ニ、先ヅ日本ノ外債ヲ二分シテ据置期間中ニ屬シ又ハ定期拂ニテ今日償還シ能ハザルモノト、既ニ据置期間ヲ經過シテ今日償還シ得ルモノト爲シ、各別ニ困難事情ヲ説明セントシ、其處ニ前者ガ後者ヨリモ多額ナルコトヲ注意シ附記シタルヲ博士ガ捉ヘテ、予ガ此事ヲ以テ外債償還困難ノ一理由トシタカノ如クニ解セラレ、

神戸博士ノ舉グル現下償還スルコトヲ得ザルモノガ其償還スルコトヲ得ルモノヨリ多キコトガ外債償還論ノ根據ヲ覆ヘシタルモノトハイヘス

ト評セラレタノハ早計デアアル。予ハ全ク日本ノ外債ヲ二種ニ分チ各別ノ説明ヲ必要トシタルヨリシテ、此兩種ノ分類ヨリ論歩ヲ進メ、兩種ノモノノ相對的地位ヲ附記シタニ止マル。予ハ此ヲ以テ外債償還論困難ノ根據トシタノデハナイ。博士ハ予ガ之ヲ根據トシタトスル方ガ自說辨護ニ都合良シトシテ假設サレタノデアラウガ、其ハ見當違デアアル。借テ又予ノイフ如ク据置期間ヲ經過シテ今日償還シ得ルモノガ七億圓余モアルナラバ、何ウセ在外正貨ニシテ處分シ

得ヘキ額ハ多クトモ五六億圓ニ過キマイカラ。此丈アラバ澤山ダトイハルルガ、博士ガ在外正貨ニシテ處分シ得ヘキモノヲ五六億圓ニ限定サレタノハ獨斷ニ過ギテ居ル。戰爭ガ永續スレバ此以上ニモ生ジ得ベキデアルガ、然ウナレバ償還一天張デハ困マルデハナイカ。博士ハ予ニ向ツテ

我在外正貨ハ今後依然トシテ大ニ増加スルモノト考ヘラルルヤ否ヤ

ト問ハルルガ、予ハ戰爭ニシテ永續スレバ在外正貨益々増加スト答フル。勿論戰爭ノ繼續期間如何ニヨツテハ、博士ノイハルル如ク其増加五六億ニ止マルカモ知レヌカラ、暫ラク博士ノ獨斷又ハ假定ヲ許シ、處分スヘキ在外正貨五六億トシテモ、之ヲ必スシモ急イデ外債償還ニ向クルニハ及バナイ。償還シ得ルモノハ償還シナケレバナラヌモノトハ異ル。之ヲ償還スルヨリモ、之ヲ其儘ニシテ置イテ、他ニ一層有利ニ使用スルノ途ガアルナラバ、之ニ使用シタ方ガ一層良イ。特ニ其償還セントセバ償還シ得ル所ノ外債

ノ利子ハ四分、四分半デアルノニ、今日ハ歐洲ニテモ安全ニ五分ニモ、六分ニモ廻ハル途ガアリ、支那及其他ノ東南洋デハ其以上ノ高利ニモ廻ハリ得ルニ於テハ、夫ノ外債ヲ急イデ返ヘスノハ愚デアアル。之ニヨツテ差利ヲ失フコトニモナリ、日本ノ政治上經濟上ノ勢力ヲ扶殖スルノ機會ヲモ逸スルコトトナル。加之日本ノ對外債務ヲ減少スル點カライヘバ外債償還モ、外國放資モ同一ノ結果トナル。餘資ヲ内地ノ事業ニ放下スル方ハ此ノ如キ對外債務減少ニハナラヌガ、日本ノ經濟力發展ノ基礎ヲ強固ニスルコトトナルコトモアウシ、又間々外債償還ニ比シテ差利ノ擧ゲラルルコトモアリ得ル。

(九)

博士ハ注意シテ居ラレヌガ、今償還シテ置カスト、他日借換カ行ハレナクテ困マルコトニナルトイフ考モアルガ、之ニツイテモ予ノ如ク生産ノ利用ヲ進メテ日本ノ經濟力ヲ強クシテ置キサヘスレバ、例ノ大正十四年償還終期ナル五億余圓ノ借換ナドハ大シテ心配スルニ及バナイデ

アラウ。特ニ予ト雖モ別ニ償還ヲモ併セ行フモノ故、其時マデニハ此モ相當減少シテ居ラウシ、益々以テ好都合デアアル。詳シクイヘバ予ノ在外正貨生産ノ利用策ニシテ一層盛ニ行ハルナラバ、日本モ此度ノ戰爭ニヨツテ、各種事業ニツイテ歐洲ノ重ナル國々ニ比シ有利ナル情勢ニ在ルヲ得ルコトトナツテ居ルコト故、特ニ歐洲ノ重ナル國ハ戰爭ノ爲メニ大租稅負擔ヲ負フコトトナルノニ、日本ハ之ガ特別負擔ナキコトヲ得ヤウカラ、今ヨリ九年間ニハ日本ハ駸々トシテ進ンデ、有利ニ借換ヲ爲スノ時期モ來ヤウ。世界ノ金融市場モ回復ニ進ムカラ尙更ラ此ニ好都合デアラウ。正貨ヲ有功ニ生産的ニ利用スルノガ何ヨリモ肝要デアアル。

(十)

又予ハ前論文ニテ今償還シ能ハザル外債ヲ減ラサウト思ヘバ、市場ヨリ買入ルルノ外ハナイガ、此ヲ盛シニ買入ルルトナルト、其市價ガ大ニ上ホツテ政府トシテ不利デアアルノミナラズ、今ヤ歐洲戰爭デ歐洲諸國ノ有價證券特ニ國債ガ

大下落ヲ生シテ居ルガ、戦後ノ財政困難及其經濟上ノ影響ナド考フルト、歐洲ノ人々ガ自國ノ證券ヨリモ日本等ノヲ持ツコトヲ選ムモノノ多クナル傾モアリ、仲々賣物ガ見付カラヌカモ知レナイトイフタガ、此ニハ博士ヨリ何等ノ答辯ガナイ。ガ博士ハ之ヲ認メテ下サツタノデアラウ。

(土)

又予ガ今償還シ得ル外債ニシテ現價六九、餘九〇、餘ナルモノヲ額面ニテ償還スルコトハ國庫ノ利益上躊躇シナケレバナラヌ。又市場カラ買入レテモドシ、買へバ額面價格ニ近ツクトイヘルニ對シ、博士ハ其ハ關ハヌ。

償還可能ノモノヲ額面額テ償還スルコトハ當然爲スヘキコトデアツテ已ムテ得ナイ

トイハルルカ、其ハ言過ギデアル。成程償還終期ニ達シタノナラバ博士ノイハルル如ク額面償還モ已ムテ得ナイガ、唯ダ据置期間ヲ經過シテ償還終期マデ大部年數ノアルモノニツイテハ、政府トシテハ、成ルヘク額面以下ノ安イ價ニテ

返ヘシ得ル道ヲ講スル義務ガアル。斯カルモノニツイテハドシ、買入レテハ額面價格ニ近ツクカラ、少シツツ而モ裏ヘ廻ツテ買入レテ返シ、尙償還終期ニ至ツテ残ツタモノハ之ヲ償還スルカ又ハ適當ニ借換ヲ爲スヘキモノデアアル。斯クテ増加シツツアル所ノ正貨ヲドシ、償還又ハ買入レニ向ケズシテ別ニ生産的ニ利用シテ置ケバ、此終期ニ於ケル借換ハ容易ニナル。其時ニナツテ四分ヤ四分半ノ借換ハ出來ナイコトデアアルマイ。而モ此方法ニハ別ニ差利ヲ舉クルコトヲ得セシメ、其他國民經濟上ノ發展ヲ助クルノ效果モアル。博士ハ之ト關聯シテ予ニ向ツテ今後何年ヲ經過シタラバ、尙遙カニ有利ナル條件ニテ償還スル望ガアルカ

詰問セラルルガ、其意ハ何年後ニ今日ヨリモ日本ノ國債ガ一層安クナルコトトナルカトイフノデアアル。處ガ予ハ寧ロ日本國債ノ一層高クナル時期ヲ待ツモノデ、四分ヤ四分五厘デ容易ニ借換ノ出來ル時期ヲ作り出サウトイフコトヲ焦慮シテ居ル。斯カル時期ガ即チ國ノ財政上ノミ

ナラズ經濟上ニモ好望ノ時期デ、斯カル時期ハ恰モ正貨ノ生産的利用ニ重キヲ置クコトニヨリテ早ク生セシムルコトガ出來ル。勿論予ハ償還終期ニ程遠キ時期ニ於テ徒ラニドシ、買入又ハ償還ヲ爲シテ公債ノ價格ヲ昂上セシメ、以テ國庫ノ負擔ヲ増加スルコトヲ願ミナイモノデハナイ。ムシロ其負擔ノ成ルヘク小ナランコトヲ努ムルモノデアアル。然ルニ博士ガ今償還スルノニ急ナル餘リ、爲メニ額面價格マデ高クナツテモ已ムヲ得ナイトイヒツツ、今後幾年シタラ尙遙カニ有利ナル條件ニテ償還スル望ガアルカトイフ詰問ヲ爲サルルノハ如何ノモノデアアルカ。單ニ額面價格ヨリモ安キ價格ナラ、幾年ヲ待ツマデモナク直キニ來ルデハナイカ。博士ノ眞意ハ戰後ヨリハ今ノ方ガ日本ノ公債ガ安イカラ今早ク買入償還スルノガ得策トイフノデアラウガ、若他ニ生産的利用ノ途ガナケレバ致方モナイトシテモ、此ガアルナラ假令今日本ノ公債ガ安ウテモ急イデ返ヘスニハ及バナイ。特ニ博士

外債ヲ市場ヨリ買上ルトスルモ、其額ハサマデ巨額デアアルトハイヒ兼メル

カラ、之ニヨリ大シテ其價格ヲ上グルコトトハナルマイトイフ考ラシイガ、博士ノ市場ヨリ買上ル額ガ巨額デナイトイフノハ如何ノモノカ。増加スル在外正貨ヲ外債償還一天張デ處分シヤウトイフノニ、其額巨額デナイトハ強辯ノヤウデアアル。博士ハ平和克復後償還スルニ比シ、今ヤル方ガ不利デハナイトイハルルガ、不利ナルコトニナリ得ルトイハナケレバナラヌ。尤モ博士ノ説明ハ我財務官等ニシテ時宜ヲ見テ適宜ニ行ツタラバトカ、必ズシモ然カ斷ズルコトハ出來ヌトカ、極メテ逃ゲ易イ詞ヲ使ツテ居ラルルカラ、予ノ批評ハ或ハ當ラナイカモ知レナイ。

(三)

予ガ外債償還ハ豫算ノ制限ヲ受クルトイツタニ對シ、博士ハ其ハ豫算ヲ定メレバ良イト無難作ニイハルル。ガ其ガ一ノ面倒タルコトハ否定スルコトハ出來マイ。予ハ外債償還ニハ斯ノ如キ面倒アリトイツタ迄デアアル。又予ガ豫算ヲ定

メタトテ、豫算ガ定メタ所ト在外正貨ノ増加シ
タ額トノ一致スルコトガ困難デアルトイツテ批
評シタルニ對シテ、博士ガ何等ノ答辯ヲ爲サレ
ヌノハ何ウシタモノカ。又之ガ實行ニツキ内債
ヲドシドシ起スコトモ容易デハアルマイトイヘ
ルニ對シテモ、均シク答辯ナキハ如何。博士ハ
結局予ガ博士ノ說ノ實行ニハ困難アリトイヘル
ニ對シテ辯解ハセラレタガ、最後ニ至ツテ

其實行上若干ノ困難ノ件フコトアルハ獨リ此政策ニ限ルモノ
デハナイ

トイフテ自ラ其說ノ實行難ヲ認メラレテ居ル。
然ラバ予ガ前論文ニ於テ博士ノ說ニ困難アリト
イヘルヲ否定セラレズシテ、肯定セラレタノデ
アル。予ハ之ヲ以テ満足スルコトガ出來ル。終
ニ臨ミ重ネテ博士ニ敬意ヲ表シ、妄言ヲ陳謝
ス。